

1	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17102001	中近世風俗画の高精細デジタル画像化と絵画史学的研究	黒田 日出男（立正大学・文学部・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>絵画史科学発展のために、資料の高精細画像化とビューワー開発に着眼したことは、極めて高い学術的意義を持つと思われる。研究成果としては、特に「フィルム借用方式」による高精細デジタル画像の集積と、「大坂夏の陣図屏風」のデジタル画像化とデータベース化が進行したことを評価する。費用の点で、直ちには一般に普及しないであろうが、当該の研究手法は、今後ますます盛んになると思われ、歴史分野だけでなく、情報分野にも方法論的に重要な知見を与えるものとなる。それ故に、史料の永続的な共有化のための方策が構築されることが強く望まれる。</p> <p>総体的には、概ね順調に研究成果を上げつつあると評価しうるので、今後の研究を推進して欲しい。</p>				
2	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17102002	西アジア死海地溝帯におけるネアンデルタールと現世人類交替劇の総合的解明	赤澤 威（高知工科大学・総合研究所・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>いくつかの研究分野を交差させ、またそれぞれが独立した研究テーマとなりうる4本だでの構築手法もユニークで高度と思われる。これまでの進捗は、当初の研究計画を凌駕するスピードで研究が推移しているようである。本研究は、人類学の研究が最も主といえようが、多くの関連分野を巻き込む重量級の課題となっており、社会的な貢献の見地からも期待が持たれる。またこれまでに生じた問題点も非常に具体的に点検している点は、当初の研究目的の達成を十分に予感させる。</p> <p>よって、総合的には、野心的な研究として、概ね順調に研究成果を上げていると評価できる。</p>				